

腹部症状

が冷えて痛み、腹部膨満感のあるものに

10 ツムラ大建中湯
エキス顆粒 (医療用) (漢方標準製剤)

【は効果】
冷えて痛み、
膨満感のあるもの

参考*(使用目標=証)

体力が低下した人で四肢や腹部が冷え、
腹痛、腹部膨満、鼓腸のある場合に用いる。

- 1) 腹壁がうすく軟弱無力で腸の蠕動不安を認める場合。
- 2) 冷えにより症状の悪化する場合。
- 3) 開腹術後の腸管通過障害に伴う腹痛、腹部膨満感。



体力のない人で、腹部膨満し、腸内の停滞感 は腹痛などを伴うものの次の諸症 急性腸炎、常習便秘、しぶり腹に

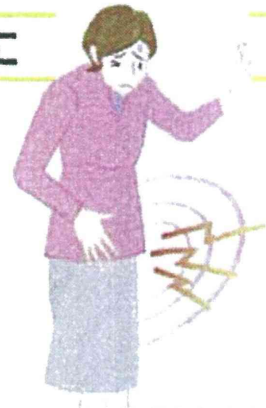
14 ツムラ桂枝加芍薬大黃湯
エキス顆粒 (医療用) (漢方標準製剤)

【は効果】
体力のない人で、腹部膨満し、腸内の停滞感
は腹痛などを伴うものの次の諸症：
主腸炎、大腸カタル
胃便秘、宿便、しぶり腹

参考*(使用目標=証)

比較的体力の低下した人で、腹部膨満し、腹痛があり、
裏急後重を伴う下痢または便秘のある場合に用いる。

- 1) 便意を催すが、快く排便しない場合。
- 2) 下剤服用後の腹痛。
- 3) 開腹術後に便の快通しない場合。



膨満感のある次の諸症 しぶり腹、腹痛に

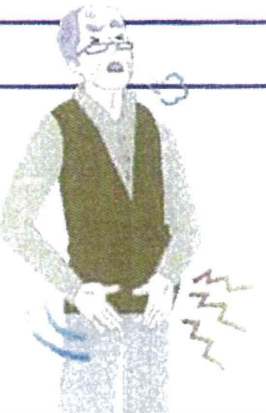
0 ツムラ桂枝加芍薬湯
エキス顆粒 (医療用) (漢方標準製剤)

【は効果】
膨満感のある次の諸症：
1) 腹、腹痛

参考*(使用目標=証)

比較的体力の低下した人で、腹部膨満し、腹痛があり、
裏急後重を伴う下痢あるいは便秘する場合に用いる。
本方は桂枝加芍薬大黃湯よりも裏急後重あるいは
便秘が軽度の場合によい。

- 1) 便意を催すが、快く排便しない場合。
- 2) 下剤服用後の腹痛。
- 3) 開腹術後に便が快通しない場合。



弱の人、或いは虚弱により体力低下した人の次の諸症 急性・慢性胃腸カタルに

2 ツムラ人参湯
エキス顆粒 (医療用) (漢方標準製剤)

【は効果】
弱の人、或いは虚弱により体力低下した人の次の諸症：
急性胃腸カタル、胃アトニー症、胃拡張、悪阻(つわり)、萎縮腎

参考*(使用目標=証)

比較的体力の低下した冷え症の人で、食欲不振、胃部停滞感、
下痢など胃腸機能が低下している場合に用いる。

- 1) 胃腸虚弱、倦怠感、尿が稀薄で量が多い、口中にうすい
唾液がたまるなどの症状を伴う場合。
- 2) 腹部が軟弱無力で振水音のある場合。

【次の患者には投与しないこと】
1: ドステロン症の患者 2: ミオパチーのある患者 3: 低カリウム血症のある患者
3: これらの疾患及び症状が悪化するおそれがある。】



漢方処方を選択



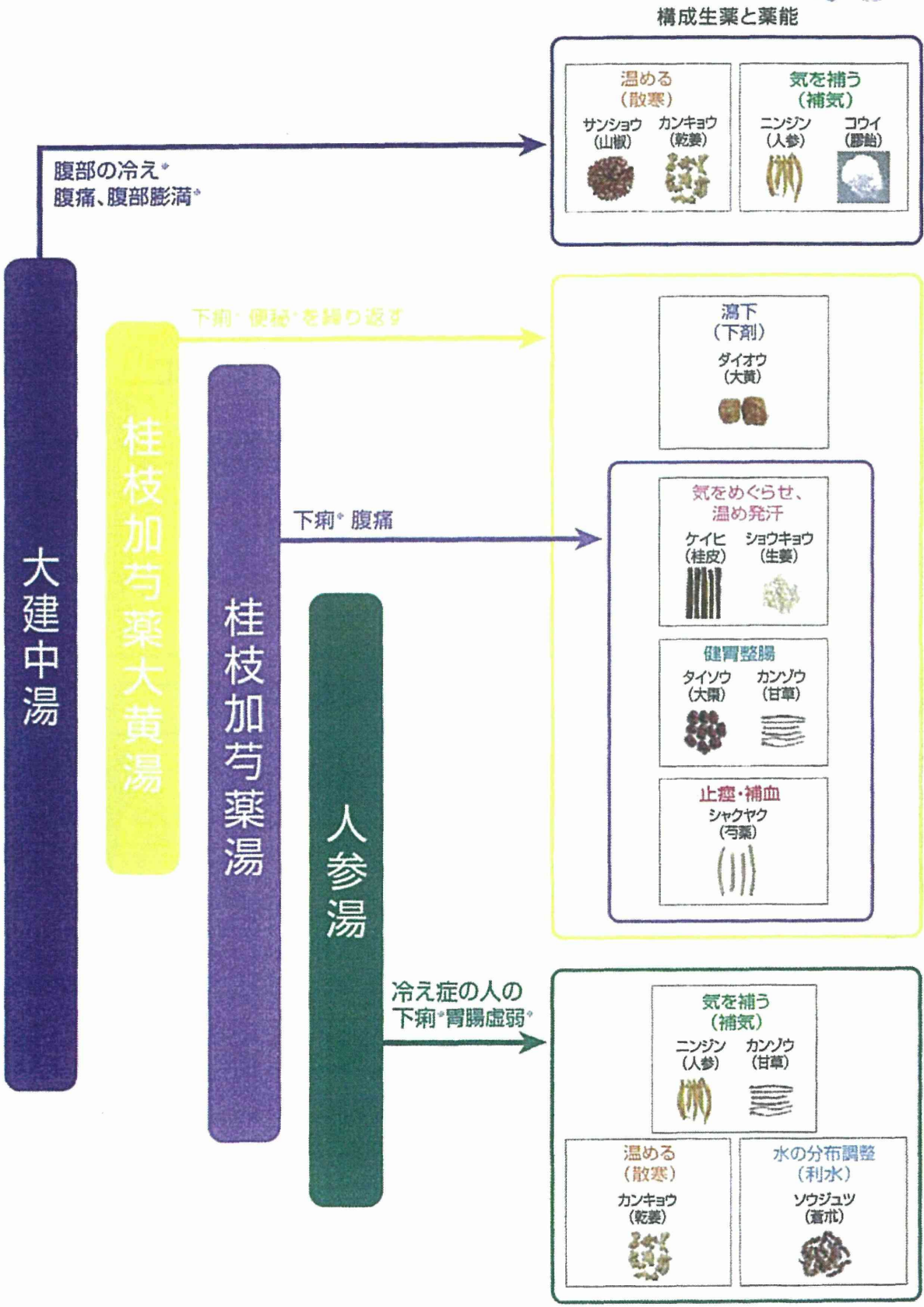
↑ 効強

実証

中間証

虚証

↓ 効弱



腹部症状

大建中湯

桂枝加芍薬大黃湯

桂枝加芍薬湯

人参湯

腹部の冷え*
腹痛、腹部膨満*

下痢・便秘*を繰り返す

下痢* 腹痛

冷え症の人の
下痢*胃腸虚弱*

下痢・消化不良

口渇、尿量減少するものの次の諸症 **下痢、嘔吐、急性胃腸カタルに**

17 ツムラ五苓散

エキス顆粒(医療用)

効能又は効果

口渇、尿量減少するものの次の諸症：
浮腫、ネフローゼ、二日酔、急性胃腸カタル、下痢、悪心、嘔吐、めまい、胃内停水、頭痛、尿毒症、暑気あたり、糖尿病

参考*(使用目標=証)

口渇ならびに尿利減少を主目標として用いる。
1) 浮腫、悪心、嘔吐、頭痛、めまいなどの症状を伴う場合。
2) 心窩部に振水音を認める場合。



みぞおちがつかえ、ときに悪心、嘔吐があり食欲不振で腹が鳴って軟便または下痢の傾向のあるものの次の諸症 **醗酵性下痢、消化不良、胸やけ、口内炎に**

14 ツムラ半夏瀉心湯

エキス顆粒(医療用)

効能又は効果

みぞおちがつかえ、ときに悪心、嘔吐があり食欲不振で腹が鳴って軟便または下痢の傾向のあるものの次の諸症：
急・慢性胃腸カタル、醗酵性下痢、消化不良、胃下垂、神経性胃炎、胃弱、二日酔、げっぷ、胸やけ、口内炎、神経症

【禁忌(次の患者には投与しないこと)】

1. アルドステロン症の患者 2. ミオパチーのある患者 3. 低カリウム血症のある患者
[1~3:これらの疾患及び症状が悪化するおそれがある。]

参考*(使用目標=証)

体力中等度の人で、心窩部の膨満感、腹中雷鳴があり、悪心、嘔吐、下痢などを訴える場合に用いる。
1) 食欲不振、軽度の上腹部痛などを伴う場合。
2) 不安・不眠などの精神神経症状を伴う場合。



やせて、顔色が悪く、食欲がなく、下痢の傾向があるものの次の諸症 **下痢、消化不良に**

128 ツムラ啓脾湯

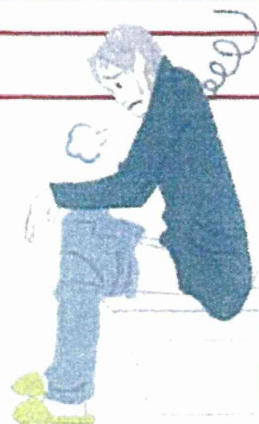
エキス顆粒(医療用)

効能又は効果

やせて、顔色が悪く、食欲がなく、下痢の傾向があるものの次の諸症：
胃腸虚弱、慢性胃腸炎、消化不良、下痢

参考*(使用目標=証)

比較的体力の低下している人の下痢に用いられる。
顔色は不良で、下痢は裏急後重を伴わず、大便の性状は泥状ないしは水様である場合が多い。
1) 食欲不振、嘔吐、腹痛などを伴う場合。
2) 腹部が軟弱で、腹壁の緊張の弱い場合。



新陳代謝の沈衰しているものの次の諸症 **消化不良、胃腸疾患、慢性腸炎に**

30 ツムラ真武湯

エキス顆粒(医療用)

効能又は効果

新陳代謝の沈衰しているものの次の諸症：
胃腸疾患、胃腸虚弱症、慢性腸炎、消化不良、胃アトニー症、胃下垂症、ネフローゼ、膵臓炎、脳溢血、腎臓疾患による運動ならびに知覚麻痺、神経衰弱、高血圧症、心臓弁膜症、心不全で心悸亢進、半身不随、リウマチ、老人性痛痺症

参考*(使用目標=証)

新陳代謝が低下して体力虚弱な人で、全身倦怠感や四肢の冷感があり、下痢、腹痛などを訴える場合に用いる。
1) 本方の下痢は、裏急後重を伴わない。
2) めまい、身体動揺感、心悸亢進などを伴う場合。



Drug Information

14 ツムラ半夏瀉心湯

エキス顆粒(既服用) (塩化第一類)

【禁忌(次の患者には投与しないこと)】

1. アルドステロン症の患者
 2. ミオパチーのある患者
 3. 低カリウム血症のある患者
- [1~3:これらの疾患及び症状が悪化するおそれがある。]

効能又は効果

みぞおちがつかえ、ときに悪心、嘔吐があり食欲不振で腹が響って軟便または下痢の傾向のあるものの次の諸症:
急・慢性胃腸カタル、脱潑性下痢、消化不良、胃下垂、神経性胃炎、胃弱、二日酔、げっぷ、胸やけ、口内炎、神経症

【参考(使用目標=証)】*

体中中等度の人で、心窩部の膨満感、腹中雷鳴があり、悪心、嘔吐、下痢などを訴える場合に用いる。
1) 食欲不振、軽度の上腹部痛などを伴う場合。
2) 不安・不眠などの精神神経症状を伴う場合。

用法及び用量

通常、成人1日7.5gを2~3回に分割し、食前又は食間に経口投与する。なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。

使用上の注意(抜粋)

1. 重要な基本的注意 (1)本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2)本剤にはカンゾウが含まれているので、血清カリウム値や血圧値等に十分留意し、異常が認められた場合には投与を中止すること。(3)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。
2. 相互作用 併用注意(併用に注意すること)

薬名等:カンゾウ含有製剤、グリチルリチン酸及びその塩類を含有する製剤、ループ系利尿剤(フロセミド、エタクリン酸)、チアジド系利尿剤(トリクロルメチアジド)

3. 副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。

- (1)重大な副作用 1)間質性肺炎:発熱、咳嗽、呼吸困難、肺音の異常(捻髪音)等があらわれた場合には、本剤の投与を中止し、速やかに胸部X線等の検査を実施するとともに副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。また、発熱、咳嗽、呼吸困難等があらわれた場合には、本剤の服用を中止し、ただちに連絡するよう患者に対し注意を行うこと。2)偽アルドステロン症:低カリウム血症、血圧上昇、ナトリウム・体液の貯留、浮腫、体重増加等の偽アルドステロン症があらわれることがあるので、観察(血清カリウム値の測定等)を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。3)ミオパチー:低カリウム血症の結果としてミオパチーがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、脱力感、四肢痙攣・麻痺等の異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。4)肝機能障害、黄疸:AST(GOT)、ALT(GPT)、Al-P、γ-GTPの上昇等を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- (2)その他の副作用

頻度不明	
過敏症 ^{注1)}	発疹、荨麻疹等

注1)このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

(2014年10月改訂)

17 ツムラ五苓散

エキス顆粒(既服用) (塩化第一類)

効能又は効果

口渴、尿量減少するものの次の諸症:
浮腫、ネフローゼ、二日酔、急性胃腸カタル、下痢、悪心、嘔吐、めまい、胃内停水、頭痛、尿毒症、暑気あたり、糖尿病

【参考(使用目標=証)】*

口渴ならびに尿量減少を主目標として用いる。
1) 浮腫、悪心、嘔吐、頭痛、めまいなどの症状を伴う場合。
2) 心窩部に振水音を認める場合。

用法及び用量

通常、成人1日7.5gを2~3回に分割し、食前又は食間に経口投与する。なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。

使用上の注意(抜粋)

1. 重要な基本的注意 (1)本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。
2. 副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。

頻度不明	
過敏症 ^{注1)}	発疹、発赤、痒疹等
肝臓	肝機能異常(AST(GOT)、ALT(GPT)、γ-GTP等の上昇)

注1)このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

(2014年10月改訂)

30 ツムラ真武湯

エキス顆粒(既服用) (塩化第一類)

効能又は効果

新陳代謝の沈滞しているものの次の諸症:
胃腸疾患、胃腸虚弱症、慢性胃炎、消化不良、胃アトニー症、胃下垂症、ネフローゼ、腹膜炎、脳溢血、腎臓疾患による運動ならびに知覚麻痺、神経衰弱、高血圧症、心臓弁膜症、心不全で心悸亢進、半身不随、リウマチ、老人性痒疹症

【参考(使用目標=証)】*

新陳代謝が低下して体力虚弱な人で、全身倦怠感や四肢の冷感があり、下痢、腹痛などを訴える場合に用いる。
1) 本方の下痢は、裏急後重を伴わない。
2) めまい、身体動揺感、心悸亢進などを伴う場合。

用法及び用量

通常、成人1日7.5gを2~3回に分割し、食前又は食間に経口投与する。なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。

使用上の注意(抜粋)

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) (1)体力の充実している患者[副作用があらわれやすくなり、その症状が増強されるおそれがある。] (2)暑がり、のぼせが強く、赤ら顔の患者[心悸亢進、のぼせ、舌のしびれ、悪心等があらわれるおそれがある。]
2. 重要な基本的注意 (1)本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。プシを含む製剤との併用には、特に注意すること。
3. 副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。

頻度不明	
過敏症 ^{注1)}	発疹、発赤、痒疹、荨麻疹等
その他	心悸亢進、のぼせ、舌のしびれ、悪心等

注1)このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

(2013年3月改訂)

※参考(使用目標=証): 監修・大塚康男、花輪壽彦

■「禁忌」、「使用上の注意」等の製品添付文書の改訂には十分ご注意ください。

*その他の使用上の注意等は製品添付文書をご覧ください。

32 ツムラ人參湯
エキス顆粒(経服用) (漢方製剤)

【禁忌(次の患者には投与しないこと)】

1. アルドステロン症の患者
 2. ミオパチーのある患者
 3. 低カリウム血症のある患者
- [1~3:これらの疾患及び症状が悪化するおそれがある。]

効能又は効果

体質虚弱の人、或いは虚弱により体力低下した人の次の諸症:
急性・慢性胃腸カタル、胃アトニー症、胃拡張、悪阻(つわり)、委縮腎

【参考(使用目標=証)】*

比較的体力の低下した冷え症の人で、食欲不振、胃部停滞感、下痢など胃腸機能が低下している場合に用いる。
1) 胃腸虚弱、倦怠感、尿が稀薄で量が多い、口中にうすい唾液がたまるなどの症状を伴う場合。
2) 腹部が軟弱無力で振水音のある場合。

用法及び用量

通常、成人1日7.5gを2~3回に分割し、食前又は食間に経口投与する。なお、年齢、体重、症状により適量増減する。

使用上の注意(抜粋)

1. 重要な基本的注意 (1)本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2)本剤にはカンゾウが含まれているので、血清カリウム値や血圧値等に十分留意し、異常が認められた場合には投与を中止すること。(3)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。
2. 相互作用 併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等:カンゾウ含有製剤、グリチルリチン酸及びその塩類を含有する製剤、ループ系利尿剤(フロセミド、エタクリン酸)、チアジド系利尿剤(トリクロルメチアジド)

3. 副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。

- (1)重大な副作用 1)偽アルドステロン症:低カリウム血症、血圧上昇、ナトリウム・体液の貯留、浮腫、体重増加等の偽アルドステロン症があらわれることがあるので、観察(血清カリウム値の測定等)を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。2)ミオパチー:低カリウム血症の結果としてミオパチーがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、脱力感、四肢痙攣・麻痺等の異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。
- (2)その他の副作用

	頻度不明
過敏症(注1)	発疹、蕁麻疹等

注1)このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

(2007年5月改訂)

51 ツムラ潤腸湯
エキス顆粒(経服用) (漢方製剤)

効能又は効果

便秘

【参考(使用目標=証)】*

体力中等度あるいはやや低下した人の弛緩性または痙攣性便秘に用いる。
1) 老人あるいは胃腸機能の低下した人の便秘。
2) 皮膚枯燥、腹壁弛緩し糞塊が触知される場合。

用法及び用量

通常、成人1日7.5gを2~3回に分割し、食前又は食間に経口投与する。なお、年齢、体重、症状により適量増減する。

使用上の注意(抜粋)

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) (1)下痢、軟便のある患者[これらの症状が悪化するおそれがある。] (2)著しく胃腸の虚弱な患者[食欲不振、胃部不快感、悪心、嘔吐、腹痛、下痢等があらわれるおそれがある。] (3)食欲不振、悪心、嘔吐のある患者[これらの症状が悪化するおそれがある。] (4)著しく体力の衰えている患者[副作用があらわれやすくなり、その症状が増強されるおそれがある。]

2. 重要な基本的注意 (1)本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2)本剤にはカンゾウが含まれているので、血清カリウム値や血圧値等に十分留意し、異常が認められた場合には投与を中止すること。(3)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。ダイオウを含む製剤との併用には、特に注意すること。(4)ダイオウの瀉下作用には個人差が認められるので、用法及び用量に注意すること。
3. 相互作用 併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等:カンゾウ含有製剤、グリチルリチン酸及びその塩類を含有する製剤

4. 副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。

- (1)重大な副作用 1)間質性肺炎:発熱、咳嗽、呼吸困難、肺音の異常(捻唸音)等があらわれた場合には、本剤の投与を中止し、速やかに胸部X線等の検査を実施するとともに副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。また、発熱、咳嗽、呼吸困難等があらわれた場合には、本剤の服用を中止し、ただちに連絡するよう患者に対し注意を行うこと。2)偽アルドステロン症:低カリウム血症、血圧上昇、ナトリウム・体液の貯留、浮腫、体重増加等の偽アルドステロン症があらわれることがあるので、観察(血清カリウム値の測定等)を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。3)ミオパチー:低カリウム血症の結果としてミオパチーがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、脱力感、四肢痙攣・麻痺等の異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。4)肝機能障害、黄疸:AST(GOT)、ALT(GPT)、Al-P、γ-GTPの上昇等を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- (2)その他の副作用

	頻度不明
消化器	食欲不振、胃部不快感、悪心、嘔吐、腹痛、下痢等

(2013年3月改訂)

60 ツムラ桂枝加芍薬湯
エキス顆粒(経服用) (漢方製剤)

効能又は効果

腰部膨満感のある次の諸症:
しぶり腹、腹痛

【参考(使用目標=証)】*

比較的体力の低下した人で、腰部膨満し、腹痛があり、裏急後重を伴う下痢あるいは便秘する場合に用いる。本方は桂枝加芍薬大黃湯よりも裏急後重あるいは便秘が軽度の場合によい。
1) 便意を催すから、快く排便しない場合。
2) 下剤服用後の腹痛。
3) 開腹術後に便が快適しない場合。

用法及び用量

通常、成人1日7.5gを2~3回に分割し、食前又は食間に経口投与する。なお、年齢、体重、症状により適量増減する。

使用上の注意(抜粋)

1. 重要な基本的注意 (1)本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2)本剤にはカンゾウが含まれているので、血清カリウム値や血圧値等に十分留意し、異常が認められた場合には投与を中止すること。(3)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。
2. 相互作用 併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等:カンゾウ含有製剤、グリチルリチン酸及びその塩類を含有する製剤

3. 副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。

- (1)重大な副作用 1)偽アルドステロン症:低カリウム血症、血圧上昇、ナトリウム・体液の貯留、浮腫、体重増加等の偽アルドステロン症があらわれることがあるので、観察(血清カリウム値の測定等)を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。2)ミオパチー:低カリウム血症の結果としてミオパチーがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、脱力感、四肢痙攣・麻痺等の異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。
- (2)その他の副作用

	頻度不明
過敏症(注1)	発疹、発赤、痒疹等

注1)このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

(2014年4月改訂)

*参考(使用目標=証): 監修・大塚泰男、花輪典彦

■「禁忌」、「使用上の注意」等の製品添付文書の改訂には十分ご留意ください。

*その他の使用上の注意等は製品添付文書をご覧ください。

61 ツムラ桃核承気湯
エキス顆粒(医療用)

効能又は効果

比較的体力があり、のぼせて便秘がちなものの次の諸症:
月経不順、月経困難症、月経時や産後の精神不安、腰痛、
便秘、高血圧の随伴症状(頭痛、めまい、肩こり)

【参考(使用目標=証)】*

体格、体力の充実した人で、瘀血*に伴い、左下腹部に抵抗・
圧痛があり(小腹堅結)、便秘し、のぼせのある場合に
用いる。

- 1) 頭痛、めまい、不眠、不安、手足の冷えなど精神神経症
状を伴う場合。
- 2) 月経不順、月経困難などのある婦人。

*瘀血:漢方の一概念で、主として婦人科疾患、出血性疾患な
どに起こり、静脈系のうっ血、出血などに関連した症候群をい
う。(日本医師会発行、医薬品カードより)

用法及び用量

通常、成人1日7.5gを2~3回に分割し、食前又は食間に経口投与する。なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。

使用上の注意(抜粋)

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) (1)下痢、軟便のある患者[これらの症状が悪化するおそれがある。] (2)著しく胃腸の虚弱な患者[食欲不振、胃部不快感、腹痛、下痢等があらわれることがある。] (3)著しく体力の衰えている患者[副作用があらわれやすくなり、その症状が増強されるおそれがある。]

2. 重要な基本的注意 (1)本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2)本剤にはカンゾウが含まれているので、血清カリウム値や血圧値等に十分留意し、異常が認められた場合には投与を中止すること。(3)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。ダイオウを含む製剤との併用には、特に注意すること。(4)ダイオウの瀉下作用には個人差が認められるので、用法及び用量に注意すること。

3. 相互作用 併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等:カンゾウ含有製剤、グリチルリチン酸及びその塩類を含有する製剤

4. 副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。

- (1)重大な副作用 1)偽アルドステロン症:低カリウム血症、血圧上昇、ナトリウム・体液の貯留、浮腫、体重増加等の偽アルドステロン症があらわれることがあるので、観察(血清カリウム値の測定等)を十分にを行い、異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。2)ミオパチー:低カリウム血症の結果としてミオパチーがあらわれることがあるので、観察を十分にを行い、脱力感、四肢痙攣・麻痺等の異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。
- (2)その他の副作用

	頻度不明
過敏症 ^{注1)}	発疹、発赤、痒疹等
消化器	食欲不振、胃部不快感、腹痛、下痢等

注1)このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

(2007年5月改訂)

84 ツムラ大黃甘草湯
エキス顆粒(医療用)

効能又は効果

便秘症

【参考(使用目標=証)】*

常習便秘に広く用いる。

用法及び用量

通常、成人1日7.5gを2~3回に分割し、食前又は食間に経口投与する。なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。

使用上の注意(抜粋)

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) (1)下痢、軟便のある患者[これらの症状が悪化するおそれがある。] (2)著しく胃腸の虚弱な患者[食欲不振、腹痛、下痢等があらわれることがある。] (3)著しく体力の衰えている患者[副作用があらわれやすくなり、その症状が増強されるおそれがある。]

2. 重要な基本的注意 (1)本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2)本剤にはカンゾウが含まれているので、血清カリウム値や血圧値等に十分留意し、異常が認められた場合には投与を中止すること。(3)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。ダイオウを含む製剤との併用には、特に注意すること。(4)ダイオウの瀉下作用には個人差が認められるので、用法及び用量に注意すること。

3. 相互作用 併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等:カンゾウ含有製剤、グリチルリチン酸及びその塩類を含有する製剤

4. 副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。

- (1)重大な副作用 1)偽アルドステロン症:低カリウム血症、血圧上昇、ナトリウム・体液の貯留、浮腫、体重増加等の偽アルドステロン症があらわれることがあるので、観察(血清カリウム値の測定等)を十分にを行い、異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。2)ミオパチー:低カリウム血症の結果としてミオパチーがあらわれることがあるので、観察を十分にを行い、脱力感、四肢痙攣・麻痺等の異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。
- (2)その他の副作用

	頻度不明
消化器	食欲不振、腹痛、下痢等

(2013年3月改訂)

100 ツムラ大建中湯
エキス顆粒(医療用)

効能又は効果

腹が冷えて痛み、腹部膨満感のあるもの

【参考(使用目標=証)】*

体力の低下した人で四肢や腹部が冷え、腹痛、腹部膨満、
鼓腸のある場合に用いる。

- 1) 腹壁がらすぐ軟弱無力で腸の蠕動不安を認める場合。
- 2) 冷えにより症状の悪化する場合。
- 3) 開腹術後の腸管通過障害に伴う腹痛、腹部膨満感。

用法及び用量

通常、成人1日15.0gを2~3回に分割し、食前又は食間に経口投与する。なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。

使用上の注意(抜粋)

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) 肝機能障害のある患者[肝機能障害が悪化するおそれがある。]

2. 重要な基本的注意 (1)本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。

3. 副作用 副作用発生状況の概要 副作用発現頻度調査(2010年4月~2012年3月)において、3,284例中、64例(1.9%)72件に臨床検査値の異常を含む副作用が報告された。

- (1)重大な副作用 1)間質性肺炎(頻度不明):咳嗽、呼吸困難、発熱、肺音の異常等があらわれた場合には、本剤の投与を中止し、速やかに胸部X線、胸部CT等の検査を実施するとともに副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。2)肝機能障害、黄疸(頻度不明):AST(GOT)、ALT(GPT)、Al-P、γ-GTPの上昇等を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分にを行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- (2)その他の副作用

	頻度不明	0.1~5%未満	0.1%未満
過敏症 ^{注1)}			発疹、蕁麻疹等
肝臓		肝機能異常(AST(GOT)、ALT(GPT)、Al-P、γ-GTP等の上昇を含む)	
消化器	腹痛	悪心、下痢	腹部膨満、胃部不快感、嘔吐

注1)このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

(2014年10月改訂)

*参考(使用目標=証): 監修・大塚崇男、花輪潤子

■「使用上の注意」等の製品添付文書の改訂には十分ご留意ください。

*その他の使用上の注意等は製品添付文書をご覧ください。

126 ツムラ麻子仁丸
エキス顆粒(経服用) 漢方製剤

効能又は効果

便秘

【参考(使用目標=証)】*

体力中等度あるいはやや低下した人の習慣性便秘で、老人や病後の虚弱者に服用される。

1) 大便是硬く、塊状を呈することが多い。

用法及び用量

通常、成人1日7.5gを2～3回に分割し、食前又は食間に経口投与する。なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。

使用上の注意(抜粋)

- 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) (1)下痢、軟便のある患者[これらの症状が悪化するおそれがある。] (2)著しく胃腸の虚弱な患者[食欲不振、腹痛、下痢等があらわれるおそれがある。]
- 重要な基本的注意 (1)本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。ダイオウを含む製剤との併用には、特に注意すること。(3)ダイオウの瀉下作用には個人差が認められるので、用法及び用量に注意すること。
- 相互作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。

	頻度不明
消化器	食欲不振、腹痛、下痢等

(2013年3月改訂)

128 ツムラ啓脾湯
エキス顆粒(経服用) 漢方製剤

効能又は効果

やせて、顔色が悪く、食欲がなく、下痢の傾向があるものの次の諸症:

胃腸虚弱、慢性胃炎、消化不良、下痢

【参考(使用目標=証)】*

比較的体力の低下している人の下痢に用いられる。顔色は不良で、下痢は裏急後重を伴わず、大便の性状は泥状ないしは水様であることが多い。

- 食欲不振、嘔吐、腹痛などを伴う場合。
- 腹部が軟弱で、腹壁の緊張の弱い場合。

用法及び用量

通常、成人1日7.5gを2～3回に分割し、食前又は食間に経口投与する。なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。

使用上の注意(抜粋)

- 重要な基本的注意 (1)本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2)本剤にはカンゾウが含まれているので、血清カリウム値や血圧値等に十分留意し、異常が認められた場合には投与を中止すること。(3)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。
- 相互作用 併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等:カンゾウ含有製剤、グリチルリチン酸及びその塩類を含有する製剤

3. 副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。

(1)重大な副作用 1)偽アルドステロン症:低カリウム血症、血圧上昇、ナトリウム・体液の貯留、浮腫、体重増加等の偽アルドステロン症があらわれることがあるので、観察(血清カリウム値の測定等)を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。2)ミオパチー:低カリウム血症の結果としてミオパチーがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、脱力感、四肢痙攣・麻痺等の異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。

(2)その他の副作用

	頻度不明
過敏症(注1)	発疹、尋常性疹等

注1)このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

(2013年3月改訂)

134 ツムラ桂枝加芍薬大黃湯
エキス顆粒(経服用) 漢方製剤

効能又は効果

比較的体力のない人で、腹部膨満し、腸内の停滞感あるいは腹痛などを伴うものの次の諸症:

- 急性腸炎、大腸カタル
- 常習便秘、宿便、しづり腹

【参考(使用目標=証)】*

比較的体力の低下した人で、腹部膨満し、腹痛があり、裏急後重を伴う下痢または便秘のある場合に用いる。

- 便意を催すが、快く排便しない場合。
- 下剤服用後の腹痛。
- 開腹術後に便の快通しない場合。

用法及び用量

通常、成人1日7.5gを2～3回に分割し、食前又は食間に経口投与する。なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。

使用上の注意(抜粋)

- 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) (1)下痢、軟便のある患者[これらの症状が悪化するおそれがある。] (2)著しく胃腸の虚弱な患者[食欲不振、腹痛、下痢等があらわれるおそれがある。]
- 重要な基本的注意 (1)本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2)本剤にはカンゾウが含まれているので、血清カリウム値や血圧値等に十分留意し、異常が認められた場合には投与を中止すること。(3)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。ダイオウを含む製剤との併用には、特に注意すること。(4)ダイオウの瀉下作用には個人差が認められるので、用法及び用量に注意すること。
- 相互作用 併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等:カンゾウ含有製剤、グリチルリチン酸及びその塩類を含有する製剤

4. 副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。

(1)重大な副作用 1)偽アルドステロン症:低カリウム血症、血圧上昇、ナトリウム・体液の貯留、浮腫、体重増加等の偽アルドステロン症があらわれることがあるので、観察(血清カリウム値の測定等)を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。2)ミオパチー:低カリウム血症の結果としてミオパチーがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、脱力感、四肢痙攣・麻痺等の異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。

(2)その他の副作用

	頻度不明
過敏症(注1)	発疹、発赤、痒疹等
消化器	食欲不振、腹痛、下痢等

注1)このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

(2013年3月改訂)

*参考(使用目標=証): 監修・大塚恭男、花輪壽彦

*その他の使用上の注意等は製品添付文書をご覧ください。

■取扱い上の注意 貯法:しゃ光・気密容器 使用期限:容器、外箱に表示	
■日本標準商品分類番号 875200	■薬効分類名 漢方製剤

■「使用上の注意」等の製品添付文書の改訂には十分ご留意ください。

便秘、下痢などの下部消化器症状に漢方を生かすこと

横浜市立大学大学院医学研究科 肝胆腸消化器病学教室 主任教授 中島淳

化器疾患のある患者の診療では、今や漢方薬なしには成り立たないほど効果を実感できることが多く、また、漢方薬は近年のエビデンスの確立と作用機序が解明され、病態に応じて考えながら処方できるようになってきました。

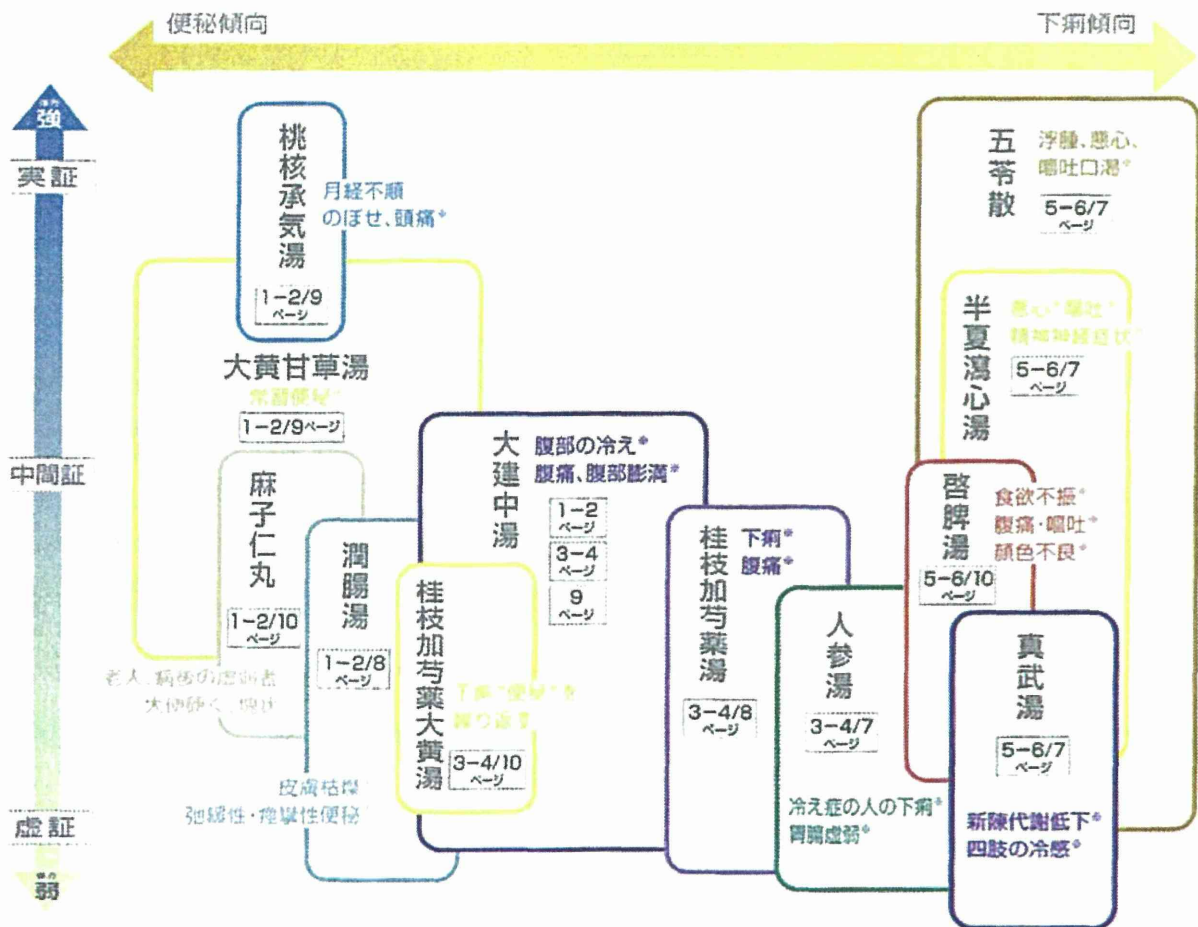
が国は医師が西洋薬と漢方薬を両方処方できる、世界のなかできわめて恵まれた状況にあります。このメリットをさらに活かす患者満足度を上げることがわれわれ臨床医の使命であると考えています。

可取り上げた、下部消化器疾患、便秘と下痢は患者数も多く、また腹部症状として現れる過敏性腸症候群(IBS)の患者の加も大きな社会問題であり、我々の日常診療で多く遭遇します。漢方薬が、慢性便秘や術後の下腹部痛、下痢に奏効し、便状の正常化、排便回数の是正、排便困難の改善など役立つことは臨床の現場で経験しています。

した症状をもつ患者への漢方の処方選択は、西洋薬的な画一的なものではなく、個人差(証など)や構成生薬などで多少

が異なりますが、もっとも研究が進んでいる大建中湯を中心に、処方機会の多いと思われる漢方を今回いくつか取り上げました。した冊子が先生方の診療の参考の一助となれば、幸いです。

下部消化器症状における漢方薬の選択



*各処方はその当ページをご参照ください。

〈慢性便秘症〉

きちんと知ってすっきりを目指そう

〈慢性便秘症〉は、排便の回数・量が減るだけでなく、便の形や硬さ、排便後のすっきり感がなく、おなかの張りやぼっこりなど、さまざまなおなかの症状が長期間続いている状態と言われています。人には相談しづらいことなので一人で悩んだり、あきらめている人も多いのでは？ 毎日笑顔で過ごすためにも、便秘のことをきちんと知って、すっきりを目指しましょう！

イラスト/ヒツダキヨミ 文/川口有紀(フリー) デザイン/富澤園子



監修/中島 淳先生
横浜市立大学大学院
医学研究科 肝胆腸消化器
病学教室 主任教授
日本消化器病学会指導医、
日本消化器内視鏡学会指導医

そもそも〈便秘〉って？

健康な成人だと、普通は一日1回の排便があります。便秘症は、それが数日に1回程度に減少し、間隔が不規則になり、便の水分含有量が低下している状態(硬便)を言いますが、排便習慣は個人差が大きく、回数や便の硬さだけでは一概に便秘とは言いきれません。問題となるのは、排便困難や腹部膨満感などの症状を伴う便秘異常=「便秘症」です。

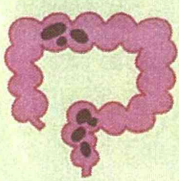
長く続くおなかの悩み
私は便秘？

多くの女性が抱える悩み(便秘)。市販薬やサプリメントを使っているけれど、便秘とはもう長い付き合い……という人も多いのではないのでしょうか？

若いころの便秘は、偏食やダイエット、不規則な生活、寝不足などが主な原因でした。でも40代を超えると「食事には気をつけているのに便秘が治らない」というケースが多く見られ、便秘が習慣化してたり、運動不足、眠りの質の低下などが原因になっていることがあります。また、単なる便秘だと思っていたら、じつは糖尿病やポリープ、大腸がんなどの病気が隠れていた……という場合もあります。

放置しておくところからだのストレスの原因にもなりうる便秘。トイレでわかるからだのサインを、まずはチェックしてみましょう。

慢性的な便秘の原因



慢性的に続いている便秘には、がんやポリープなどで腸の一部が狭くなったり、ねじれたりすることで通りが悪くなるのが原因と言われる器質性便秘、鎮痛剤や降圧剤などの服用が原因の薬剤性便秘、糖尿病や神経、心臓、血管などの病気が原因の症候性便秘などがあります。これらに当てはまらない便秘を機能的便秘と呼び、多くの人はこの機能的便秘と言われています。

自分で気づいていないだけで、隠れ便秘ということもあるの？

便秘は単に「便が長い間出ないこと」と思っていますか？ でも排便の感覚には個人差があり、3~4日に1回の排便でもすっきりしていればそれは〈便秘〉と捉える必要はありません。逆に、毎日排便があっても「便が硬い」「強くいきまないと出ない」「排便時に苦痛がある」などの不快な症状がある場合は〈隠れ便秘〉の可能性が。また、理想的な便の状態は「なめらかなバナナ状」。自分の便の状態がどの状態なのか、知っておくことが大切です。



CHECK LIST!

2つ以上当てはまったら便秘かも？

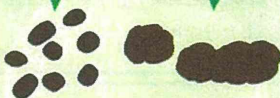
- 排便回数が週2回以下
- 排便時に「いきむ」ことがよくある
- 硬い便になることがよくある
- 排便後もまだ残っている感じがよくある
- おしりに何か詰まっている感じがよくある
- おなかのマッサージなど刺激を与えないと出ない

2つ以上当てはまれば「慢性便秘症」かも？
これらの症状がずっと続いたら、市販薬が効かなくなってきたら、医師に相談してみましょう。

私はどのタイプ？

硬くコロコロした便

短い固まりデコボコした便



表面ひび割れソーセージ状の便

バナナ状やソフトクリーム状の便

軟らかく半円形の便

泥状の便

固まりのない水様便



侮れない便秘薬 長期投与にワナ

処方薬だけでなく、様々なOTC薬が存在する便秘薬。酸化マグネシウムや刺激性下剤の長期漫然服用の弊害は大きい。処方薬に加え、OTC薬の適正使用に貢献できるのは薬剤師のみ。薬局での適切な指導が求められている。
(小坂橋 律子)



「日本では薬局やドラッグストアで簡単に便秘薬を購入できるが、これはあまり良いことではない」。こう話すのは、横浜市立大学医学部肝胆脾胃消化器病学教室主任教授の中島淳氏。

便秘症状は、大腸癌だけでなく、パーキンソン病や認知症、糖尿病、甲状腺低下症に合併することがある。さらに、薬剤の副作用として生じるケースも少なくない。便秘を生じやすい薬剤には、抗うつ薬や抗不安薬、オピオイド、カルシウム拮抗薬などが知られる。「こうした便秘の原因を精査することなしに、市販の便秘薬で、患者が自己流に対処することに潜む危険は多い」と中島氏は警鐘を鳴らす。

便秘に悩み、OTCの便秘薬に頼らざるを得ない患者は少なくない。しかし、命に関わる疾患を見落としかねないことを念頭に、薬剤師は、患者がOTC薬を不適切使用していないか確認し、長

期に使用している患者には、医療機関の受診を勧めたい。

酸化Mgに死亡リスク

現在、特に注目されているのが、酸化マグネシウムによる電解質異常だ。これまでも酸化マグネシウムの長期投与では死亡例が報告されており、2g/日以下という用量を遵守した上で、定期的に血清マグネシウム値を検査すべき薬剤とされている。

欧米では、電解質異常をもたらす危険性がある酸化マグネシウムが安易に長期処方されることはまずない。しかし、日本では、いまだに漫然と長期間、酸化マグネシウムが処方される患者が多いのが現状だ。「高齢者はほぼ全員、酸化マグネシウムが長期処方されている」と話す薬剤師もいるほど、処方頻度は高い。だが、定期的な血液検査を実施する医師は限られる。

「高齢者や軽度慢性腎臓病患者が増加してきた昨今の状況下では、酸化マグネシウムの使用は慎重にすべき」と中島氏は注意を喚起する。また、どうしても処方する際は、「一見、健康な高齢者でも、腎機能は低下しているので、1g/日以下に抑えるべき」との考えだ。処

方箋を応需する薬剤師には、過剰投与がないか、注意してほしいと要望する。今後は、酸化マグネシウムに代わり、腸管内への水分分泌を促進するルビプロストン（商品名アミティーザ）が第一選択になるという。

国立病院機構久里浜医療センター内視鏡部長の水上健氏も、酸化マグネシウムによる高マグネシウム血症に注意を払う。水上氏は、酸化マグネシウムを処方する必要がある場合は、「年齢にかかわらず1g/日を上限とし、効果が不十分な場合は、糖類下剤を併用する」と語る。小児患者には、糖類下剤のラクツロース（モニラック他）を処方し、ラクツロースの適応がない成人患者には、健康食品として販売されているオリゴ糖（ラクトスクロース）の摂取を勧められている。

健康食品にも注意を

すずらん薬局十日市店（広島市中区）管理薬剤師の熊谷恭子氏は、薬剤師として、積極的に便秘症患者に関わっている。特に注意しているのが酸化マグネシウムの処方箋。

「腎機能が低下している可能性のある患者では、毎回疑義照会を行って



横浜市立大学の中島淳氏は、「高齢者への酸化マグネシウムの長期投与は見直すべき」と語る。